

1. 「災害・危機支援特別委員会」始動

3月11日の震災を機に設立された東日本大震災支援対策本部および災害社会トラブル研修部門は「災害・危機支援委員会」として2012年度より再編成されました。

メンバーは堀江まゆみ委員長、前川あさ美、西本絹子、東敦子、三宅篤子、深井敏行が中心となり、各支部から委員を選出し、支援組織を構築していきます。



びえろプロジェクト

2. 東日本大震災支援基金運用委員会

引き続き、会員から東日本大震災支援基金を募り、今後の活動資金としていきます。2012年度からは一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構災害支援活動基金運用委員会（委員長：伊藤英夫）で管理をおこなっていきますので、ご協力をお願いします。

3. 相馬市での支援（JDDネットの支援活動への協力）

福島県相馬市「放課後支援ゆうゆう」への支援には2011年8月～2012年3月末までに15名の臨床発達心理士が活動に参加しました。4月以降も、現地のニーズに応じて健診業務や発達相談などの行える心理士を派遣していきます。

4. 気仙沼市における支援プロジェクト

宮城県気仙沼市のプロジェクトは、現地の職員のエンパワメントを目的とした研修会や事例コンサルテーションを継続していきます。A 保育系職員対象、B 障害児教育関連施設職員対象、C 高齢者福祉施設職員対象、D 医療系職員保健師対象、E 公開講座、F 仮設住宅職員対象、の6コースを企画し、日本老年行動科学会や子どもSTの会などと協力して講師やファシリテータの派遣を行います。高齢者支援活動の様子は2012年10月14日の老年行動科学会、2013年2月23日思春期・青年期部会主催研修会にて報告があります。

&成人・高齢者部会の合同研修会

5. 災害・危機支援資格更新研修会

2012年3月10-11日発達心理学会にて「災害と発達支援」（司会：長崎勤 話題提供：前川あさ美、三浦暁子、根が山光一 指定討論：本郷一夫）、災害本部シンポジウム（司会：堀江まゆみ 話題提供：西本絹子、堀江まゆみ、東敦子 指定討論：秦野悦子）、成人高齢者災害支援シンポジウム（日本老年行動科学会・日本発達心理学会との合同：司会：成田健一（関西学院大学） 話題提供者：山本哲也（つくば国際大学）坂本佳代子（坂本福祉相談事務所）大山博史（青森県立保健大学） 指定討論：三宅篤子（帝京平成大学）大川一郎（筑波大学））などが行われました。

3月20日には、筑波大学で「災害と教育—学校・地域を基盤にした継続的支援の仮題と展望」学校心理士会、臨床発達心理士会、特別支援教育士認定協会の3団体合同研修会として行われました。

7月29日には資格更新研修会「学校と防災～災害に向けて、今、学校がすべきこと」が東京女子大学にて行われました。講師として、大石啓文氏（静岡県立富士特別支援学校）正田康恵氏（都立武蔵台学園）宮澤達寛（神奈川県立平塚市教育研究所所長）伊藤明美（岩手県宮古市赤前小学校副校長）田中紀彦（福島県立相馬養護学校）堀江まゆみ（白梅学園大学）をお招きし、各地域で学校が果たした役割と今後の備えについて話し合いました。

9月16日の全国大会では「災害と危機支援」（講師：堀江まゆみ）というテーマで研修会を行い、これからの支援の在り方、またさまざまな危機状況における支援について学びの場としたいと思います。茨城支部の災害支援状況についての報告も続けて行われます。ふるってご参加下さい

6. 各支部活動報告

埼玉県支部では引き続き、福島県双葉町からの避難者支援として毎月第4土曜日に旧騎西高校で活動を行っています。高齢者の傾聴支援は終了し、月に1回のあそびの広場を継続しています。また、南相馬での保護者・教職員・施設職員向けの相談会（次回は10・21）、いわき市の双葉町民仮設での遊びの広場の開催などを行っています。ボランティアを募集中ですので、どうぞご協力のほどお願いいたします。申し込み問い合わせは、HPまたは pierro@jacdp.jp まで。

7. 「東日本大震災中央子ども支援センター協議会」への参加

厚労省の働きかけで、日本子ども家庭総合研究所（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会）に事務局を置く、「東日本大震災中央子ども支援センター」が発足し、44団体から構成される「東日本大震災中央子ども支援センター協議会」ができ、臨床発達心理士会にも参加呼びかけがあり、参加することとなりました。岩手、宮城、福島の県センターと連携し、子どもの心の問題等の専門家の不足に対応することとなっています。